

子育ての悩みがあれば 子ども包括支援センターへ



子ども包括支援センターとは

子ども包括支援センターは、平成28年4月に健康づくり推進課内に設置されました。

妊娠前から子育て期（おおむね中学生）までの、さまざまな不安・疑問・相談に対応する総合相談窓口です。

利用する人の状況に合わせて、関係サービスの調整を行うなど、専門職（保健師・心理士）がサポートします。

妊娠期から支援を行います

健康づくり推進課（ゆめトピア長船内）に妊娠届が提出されたときは、保健師が妊婦と面接し、妊娠・出産・育児の不安などを聞き、妊娠期を安心して過ごすためにはどうすればいいかを一緒に考えます。

そのため、できるだけ妊娠届は、健康づくり推進課に提出してください。

また、訪問や電話により、妊娠の経過や不安なこと、困っていることはないかなどを聞いていますので、お気軽にご相談ください。

マタニティ教室を開催しています

妊婦同士の仲間づくりや見通しを持って子育てができることを目的として、平成28年10月からマタニティ教室を開催しています。

教室では、先輩ママから子育てについて話を聞いたり、赤ちゃんへのプレゼントを作ったりしています。

対象者には、順次マタニティ教室の案内をお送りします。皆さんご参加をお待ちしています。



出来上がった指人形



マタニティ教室で赤ちゃんへのプレゼントを作りました

困っていることや悩んでいることがあるれば、お気軽にご相談ください。

なお、相談日は、子育て支援センター便りでお知らせしています。

発達に不安のある子どもの相談を受けています

身近な場所で
子育ての悩みを相談できます

本年度、子ども包括支援センターの心理士が、市内5園に併設の子育て支援センターを月1回巡回し、相談に乗っています。

「こんなこと聞いてもいいの?」「相談に行くのは敷居が高くて...」と子育て中の人々の声を聞くことがあります。



子ども包括支援センター
0869・24・8033

お守り刀としての日本刀



巻之百二十五

第十一回お守り刀展覧会

現在、備前長船刀剣博物館では、「第十一回お守り刀展覧会」を開催中です。

2階展示室には、全国の現代刀匠による新作のお守り刀を展示しています。今回も文部科学大臣賞や駐日ポーランド共和国大使賞など、国内外から評価を受けた作品が勢揃いしています。

お守り刀

お守り刀という文化は、神話における神より授けられた、三種の神器の一つに草薙剣があることから始まったとされ、刀剣そのものが、神仏

とつながり、絆の役割を担うようになります。また、その憑代として常に身近に置くことで、実質的な武器としてだけでなく、目に見えぬ災厄からも守護していただくようになりました。

平安時代の有名な文学作品『源氏物語』の「夕顔」の段では、悪霊に対して、魔除けのために太刀の鞘をはらって置いておくことで無事朝を迎えることができたといった描写があり、お守り刀の思想を垣間見ることが出来ます。

こうした中、より神仏に祈願、祈念し加護をいただくために、刀剣を奉納したり、刀剣そのものをご神体としたりすることが各地で行われるようになってきました。

ただ、奉納刀を所蔵する多くの神社では太平洋戦争中とその後のGHQによる統制の中で、秘蔵し、守り続けてきたのですが、逆に秘蔵し過ぎて手入れがされず、錆びてしまった刀剣が急増する原因ともなりました。

奉納刀研磨プロジェクト

平成28年6月、そうした奉納刀を後の世にきれいな状態で残したいと、日本美術刀剣保存協会の岡山県支部が「奉

納刀研磨プロジェクト」を立ち上げました。研磨修復するための資金を「クラウドファンディング」という、インターネット上で出資金を募る手法で、多くの賛同を得て、3口が研磨修復されました。

第48代横綱・大鵬幸喜閣の土俵入り太刀（室町時代前期の備前長船の刀匠・師光の作）を筆頭に、現代の名工・月山貞利氏の太刀で土俵入りする第69代横綱・白鵬翔閣のものまで、さまざまな横綱土俵入り太刀や化粧まわし、錦絵、屏風絵や等身大の姿絵掛軸、行司の衣装と短刀、弓取りの弓などを展覧します。

【第十一回お守り刀展覧会】

開催期間
平成29年1月22日（日）まで

開催期間
前期：平成29年1月27日（金）

後期：平成29年3月1日（水）

▽場所 備前長船刀剣博物館



第69代横綱 白鵬翔 土俵入り太刀 (月山貞利刀匠の作)